

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100106		
法人名	社会福祉法人 青空会		
事業所名	グループホーム青空倶楽部 奥野館		
所在地	青森県青森市奥野2丁目27番10号		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年2回、家族参加の外出レクリエーションを開催している。夜には職員と家族の懇親会を行い、日頃話せない情報交換の機会を設け、個別ケアの向上に繋げている。
 秋祭りでは毎年地域の方々を設置を手伝ってくれている。地域の方々とは互いの行事に参加しているほか、庭の草花や山菜等を届けてくださったり、庭を散歩させてくださる等、配慮していただいている。
 また、中学生の職場体験学習や大学生の実習を受け入れ、認知症についての理解や介護の仕事に興味を持っていただけるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内の住宅地に立地し、建物は新しく、使い方を工夫しており、随所に職員の配慮を感じるホームである。
 食事は手作りで利用者の嗜好に配慮しており、調理や準備・後片付け等も一緒に行い、職員も一緒に席に着いて、和やかな雰囲気の中で食事をしている。年2回、家族参加の外出レクリエーションがあり、利用者や家族との交流はもちろん、家族と職員との話し合いも持ち、ホームへの理解や要望等を聞く機会になっている。
 毎月の職員会議は全職員が参加しており、報告や連絡を統一し、利用者や家族、職員が一緒になって、ホームの運営に参加している姿勢が見られ、居心地の良いホームとなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成30年11月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。また、その理念を踏まえ、毎年ユニットの目標を立て、目につく場所へ掲示し、日々実践している。	同系列のグループホーム同一の理念のほか、ホーム独自にユニット毎の1年間の目標を掲げ、ホーム内に掲示している。管理者や職員は理念を共有し、サービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧板に広報誌を入れて、ホームの活動を知っていただけるように努めている。町内会のラジオ体操に毎年参加しているほか、地域の方が庭の草花や山菜を届けてくれたり、秋祭りには準備の時点から協力をいただいている。	地域住民が山菜等を差し入れてくれたり、実習生や学生の福祉体験の受け入れのほか、ホームの秋祭りでは町内の方が準備等から手伝ってくれる等、利用者が地域と繋がりながら暮らすことができるように交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場見学や職場体験、大学生の実習受け入れを積極的に行っている。また、互いの行事への参加を通し、認知症の方への理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実施状況やホームの取り組み等について報告しており、質問や意見をいただき、サービス向上へと活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者の暮らしぶりやサービス提供、外部評価への取り組み等について報告や話し合いを行い、出された意見をサービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。また、市担当者にはホームの状況・状態等を報告し、アドバイスを受けている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、市担当者とも利用者への介入に関わる事等、日頃から連絡を取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員を身体拘束に関する研修へ派遣している。また、ホーム内の勉強会にて全職員が再確認し、理解を深める機会を設けている。気づきがあれば、その都度検討している。	今年度から身体拘束検討委員会を運営推進会議と同時に2ヶ月に1回、開催している。ホームでは内部研修を行い、職員は身体拘束の弊害について理解し、居室等の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を身体拘束に関する研修へ派遣している。また、ホーム内の勉強会にて全職員が再確認し、理解を深める機会を設けている。気づきがあれば、その都度検討しているほか、職員の精神的ストレスにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員を権利擁護に関する研修へ派遣している。ホーム内の勉強会にて全職員が再確認し、理解を深める機会を設けている。現在、成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や解約の際には契約書や重要事項説明書等を説明し、その都度、疑問点や不安な点がないか聞き、納得した上で契約・解約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にはホーム内の苦情受付担当者のほか、行政や国保連の連絡先を明示している。玄関に拝見箱を設置し、意見や要望等を表出できる場を確保している。	苦情受付等について重要事項説明書に記載して、ホーム内にも掲示している。運営推進会議に家族等が参加し、意見や要望を管理者や職員、外部へ表せる機会を設けており、出された意見は法人内の会議で対応を検討する体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々のミーティングや職員会議、個別面談にて、要望や意見を聴取できるようにしている。また、代表者は管理者から職員の要望や意見を聞く機会を設けており、反映できるように努めている。	毎月の職員会議は全職員が参加して、活発な意見交換を行っている。職員の異動等を行う際には職員の意見も聞きながら、働きやすい環境づくりに努めているほか、利用者への影響を最小限にするための配慮を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の状況を把握しており、各職員が希望するスキルアップに対する援助やできる限り有給休暇を消化できるようにしている。職員が向上心を持って就労できるよう、環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量や経験年数、資格取得を考慮し、法人内外の研修へ参加する機会を確保している。また、働きながら資格を取得できるよう、長期間の研修受講の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との繋がりを大事にしており、研修会や交流会へ参加できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談があった段階で、入居者との面談やホームの見学に来ていただき、心身の状態や抱えている課題、不安な点を聴取する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があった段階で、面談やホームの見学に来ていただき、心身の状態や抱えている課題、不安な点を聴取する機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来た方から主訴を伺い、その時点で利用できるサービス等やサービスを提供できる事業所の紹介等、情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に過ごす日常生活の中で同じ時間を共有し、できる事は行っていただき、共に協力して生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には相談や報告をこまめに行っている。月次報告書や個別新聞を発行して、情報を共有し、意見やアイデアをいただいている。また、離れた生活になっても家族の一員であり、入居者を共に支える一員であることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の面談や入居後の会話において、馴染みの人や場所等の把握に努めている。家族のみではなく、友人等にも気軽に来ていただけるようにしている。	家族や関係機関からも聞き取り、利用者の入居前の生活歴を把握し、利用者が大切にしてきた方や場所との関係が途切れないように手紙や電話で連絡を取ったり、交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の対人関係の把握に努め、円滑に生活を送れるように、職員が橋渡し役となり、介入している。また、協力活動等を通して、支え合う心が芽生えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはサービス利用終了後も随時、相談を受けていることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの話す言葉や行動、表情から思いを汲み取るように努めており、その都度、申し送りや会議で検討し、対応している。	担当制になっており、職員が利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、意向の把握が困難な場合は言動やしぐさ等から、全職員が利用者の気持ちになり、思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談等で生活歴や馴染みの習慣、利用していたサービス等の情報収集を行い、把握している。また、知人等が面会に来た際は情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の事前面談等で既往歴や心身の状態等の情報を収集し、できる事やできない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは面会時やカンファレンス時を利用し、入居者からは日常生活から意見を吸い上げ、職員会議で話し合い、介護計画に反映させるように配慮している。	定期的にモニタリングを行い、利用者のアセスメントから課題を明らかにしており、ケアについて利用者や家族、関係者と話し合い、利用者 に合った介護計画を作成し、実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録し、変化や対応方法によってどのような結果が生まれたかを記載し、より良いケアの追及に努めている。また、日誌や申し送りにて全職員に周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や訪問看護、訪問歯科等、定期診療以外にも必要に応じて対応できるようにしている。また、家族や入居者の希望があれば、医療と連携し、看取りも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や避難訓練時には町内会の方々にも参加していただいている。町内の行事に参加する機会があり、地域との繋がりを持つことができ、安全面の配慮も受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医や協力医療機関への通院・往診にて、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前に通院していた病院や希望を確認して受診支援を行っているほか、協力医療機関へ変更することも可能であり、適切な医療を受けられるように支援している。受診結果は月次報告や電話等で行っており、家族等の納得を得た方法で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、月2回の定期訪問で日常の健康管理や医療活用の支援を受けている。また、24時間相談も可能であり、いつでも相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の心身の状況を伝達し、安全に安心して治療が受けられるように援助している。入院先の医師や看護師、ケースワーカーと情報交換を密に行い、早期にホームでの生活を再開できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について家族に十分に説明しており、家族や医師、ホームとで話し合う場を設けている。双方の合意・納得を得て希望があれば看取り契約書を交わし、看取り計画書を作成して、対応している。	入居時から重度化した場合や終末期の対応について、利用者や家族等と話し合い、希望があればホームで看取りをすることができる。ホームでは医師に講師をもらい、看取りに関する学習会を行う等、体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習を受講できるように法人独自でも勉強会を開催し、学ぶ機会を設けている。また、急変時におけるマニュアルを整備し、いつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は町内の方の参加を得て、意見をいただきながら行っている。また、水災害時の対応マニュアルも作成しており、避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を実施し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を職員が身につけている。設備点検は年2回行っているほか、災害時の避難については地域との協力体制を築き、行政等とも連携し、情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と接する際にはその瞬間の状況に合わせた言葉かけや自尊心・羞恥心に配慮した対応を心がけている。	利用者は「さん」付けで呼んでおり、利用者一人ひとりに応じたケアを実践している。声かけや対応について、馴れ合いになっていたり、傍から見て不快を感じるような時はその都度注意し、ホーム全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてその瞬間の思いや希望を聴取できるように働きかけ、雰囲気づくりを心がけている。口頭で意思表示が困難な方に関しては、身振りや目線・表情から意思を汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者と職員の日々のコミュニケーションで、何をしたいのかを探り出し、生活に反映できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時には以前から着用していた衣類を持参していただき、不足の際には入居者と購入に出かけたり、家族に依頼している。入居者の希望を伺い、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者が美味しく、安全に摂取できるように、入居者個々に合わせた食事形態や量を提供している。職員と会話を楽しみながら食事をしており、調理や盛り付け・片付けは、入居者と協力して行っている。	献立は法人の栄養士が利用者の希望や好み、身体状況に配慮した献立を作成している。調理や食事の準備や片づけは利用者と職員が一緒に行い、食事と一緒に摂っており、和やかな雰囲気ですべての時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部の栄養士が作成しているが、入居者一人ひとりの状態に合わせて、食形態や量・内容を変え、対応している。水分摂取量が不足しないようにその方に合わせた飲料の提供等、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は理解しており、入居者一人ひとりの状態に合わせて、毎食後に声かけや介助にて実施している。また、歯磨き・うがい困難な入居者にはスポンジブラシや洗剤等を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要な入居者には排泄チェック表をつけることにより、排泄のリズムを把握し、トイレでの排泄を行えるように支援している。また、入居者一人ひとりに合わせた尿取りパッドを使用することで汚染が減少し、衛生的に過ごすことができている。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録しており、個々に応じた支援を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。また、トイレから浴室にすぐ行けるようにドアで繋がっており、失禁時には他の利用者に気づかれぬように誘導することができる環境となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の要因や影響を理解している。食物繊維の摂取や十分な水分摂取、運動量等、入居者個々に応じた自然排便を促すような取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決めておらず、入浴チェック表を付け、週2回以上は入浴していただけるように声かけを行っている。入浴したがない場合は無理せず、時間を置いて再度、声かけを行っている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の入浴は個別に実施している。利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、入浴習慣の把握等、個々に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に不眠状態が見られる入居者には職員と談話したり、飲み物を提供する等して、入眠しやすくなるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の情報はファイリングしており、いつでも閲覧できるようにしている。処方内容の変更があった際には往診結果に記載し、全職員に周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活において行ってきた習慣や趣味等を尊重し、継続して行えるように支援している。また、日常において、入居者一人ひとりの得意部分で力を発揮できる場面ができるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や入居者の心身状態を考慮し、花の水やりや散歩・買い物やドライブ等、外出の機会を設けている。家族との外出の際には、車椅子の貸し出しを行っている。観桜会・りんご狩り等、季節の行事には家族の協力も得て出かけている。	利用者の希望の把握に努めており、外出の機会を多く設けるようにしている。年2回は家族参加の外出レクリエーションを実施しており、できるだけ利用者が家族と一緒に過ごせるように家族の車で移動する等、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の個々の力量や状況に合わせ、支払を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、電話を使用していたりしている。手紙やハガキが届いた場合には、返信の支援をしている。家族や友人に年賀状等を出せるように、代筆等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節を感じられる装飾や入居者が作成した作品を掲示している。また、リビングや居室の照明、温・湿度は状況を見て、こまめに調整している。	館内は掃除が行き届き、清潔を保持しており、ホーム内は加湿器を利用する等して温・湿度を調整し、利用者が快適に生活できるように配慮している。また、季節の作品を飾り、利用者が季節を感じるできるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の精神状態等に配慮しながら、居場所を工夫している。気の合う入居者同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具類を持ち込んでいただいております。入居者の希望を伺いながら配置している。	各居室に温・湿度計を設置し、適切に管理している。持ち込みは自由であり、入居前から使い慣れた物や好みの物を持って来てもらい、利用者や家族と相談しながら、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、入居者の力量を活かした生活を送れるようにしている。また、トイレ等の掲示を大きく目線の高さに表示したり、目立つ色にする等の配慮している。		